科　目　名	文章の表現Ⅱ	科目分類	教養・選択
		開講年次	1
英文表記	Composition Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	はしもと　しほ	単位数	2
担当者名	橋　元　志　保		
授業の到達目標及びテーマ			

【授業概要】

良い文章とは、どのような文章なのでしょうか。それは、テーマや表現、構成が優れているだけではなく、自分自身の価値観、心のありようが表れている文章だと思います。「文は人なり」という有名な言葉がありますが、文章を書くことは自分自身をみつめ直すことに繋がるのです。

本講義では、自分自身の考えを明確に伝え、また論理的な文章が書けるようになるために、様々なことを学んでいきます。具体的には、テーマや構成、題材と表現、推敲の大切さ等、文章上達のためのポイントをわかりやすくお話しします。また、「話すこと」と「書くこと」は連動しており、グループ・ディスカッションを通じて、話す力の向上も目指していきます。

授業計画
第１回　　心ありての言葉
第２回　　名文を読む①－アルフォンス・デーケン「愛の言葉」－
第３回　　名文を読む②－アルフォンス・デーケン「愛の言葉」－
第４回　　名文を書き写す①－河合隼雄の文章から－
第５回　　名文を書き写す②－河合隼雄の文章から－
第６回　　論作文を書いてみよう①
第７回　　論作文を書いてみよう②
第８回　　論作文を書いてみよう③
第９回　　推敲の方法
第 10 回　「話すこと」と「書くこと」
第 11 回　対話力 －明確に伝える－
第 12 回　コメント力 －要約と引用－
第 13 回　論述 －事実と意見－
第 14 回　リピートの持つ力 －論の構成と述べ方－
第 15 回　総括
第 16 回　後期試験

テキスト	辰濃和男『文章のみがき方』
参考文献	授業の際に紹介する。
評価の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。
学生へのメッセージ	

科　目　名	小論文の書き方	科目分類	教養・選択
		開講年次	1
英文表記	Critical Thinking and Writing	開講期間	後期
ふりがな	はしもと　しほ	単位数	2
担当者名	橋　元　志　保		
授業の到達目標及びテーマ	論理的文章の書き方の基本を身につけよう。		

【授業概要】

本講義では、小論文やレポートの基本的な書き方を学びます。大学生活において、論理的な文章を「書く」という行為は欠かせないものです。定期試験における文章問題やレポート、そして卒業論文など、「テーマを決め、それに基づいて資料を集め、構成を考え、まとめていく」という作業を行うことは、非常に多いのです。

まず初めに、テーマの設定や資料の検索の仕方、構成の重要性、引用・要約の方法などを学んでいきます。また、自分が書いた文章を、表記や文体、構成などの観点から、より良い文章に推敲していくスキルも身につけていきましょう。

授業計画
第１回　　学術論文と試験論文とは
第２回　　テーマ設定と資料収集
第３回　　テーマと構成、表現とは
第４回　　引用と要約
第５回　　小論文を書いてみよう①－三段構成法とは－
第６回　　小論文を書いてみよう②－事実と意見－
第７回　　小論文を書いてみよう③－テーマの伝え方－
第８回　　推敲の方法
第９回　　公務員試験の論文対策①
第 10 回　　公務員試験の論文対策②
第 11 回　　時事問題の学び方①－格差社会－
第 12 回　　時事問題の学び方②－グローバル化と国際化－
第 13 回　　時事問題の学び方③－ＮＰＯとボランティア－
第 14 回　　時事問題の学び方④－循環型社会の構築－
第 15 回　総括
第 16 回　後期試験

テキスト	資料を配付する。
参考文献	授業の際に、紹介する。
評価の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。
学生へのメッセージ	公務員試験の論文対策を行います。志望者はぜひ受講してください。

科　目　名	日本の文学Ⅱ	科目分類	教養・選択
		開講年次	2
英文表記	Japanese LiteratureⅡ	開講期間	後期
ふりがな	はしもと　しほ	単位数	2
担当者名	橋　元　志　保		
授業の到達目標及びテーマ	近代化とアイデンティティ 世界の中の日本文学		

【授業概要】

漱石の言葉を引用するまでもなく、日本の近代は外発的に始まった。鎖国によって閉ざされていた日本という国が国際社会に向かって初めて開かれたとき、そこに日本人達が見出したものは、西洋列強との圧倒的な国力の差であった。産業革命によって急速に発展し、アジア各地で植民地を建設する先進国の脅威を常に感じながら、日本の近代化は西洋の「三百年の活動を四十年で繰り返す」勢いで進められたのである。

本講義では、国民国家の形成期にあたる近代から、現代にかけての様々な文学や言説を読み解き、日本及び日本人に対する考察を重ねていきたい。また、現代の日本文学が抱える諸問題、その受容の特色についても触れていきたいと考えている。

授業計画

第１回	国民国家の誕生－日本人というアイデンティティー
第２回	日本の近代－司馬遼太郎『明治という国家』を読む－
第３回	日本の近代 －司馬遼太郎『坂の上の雲』を読む①－
第４回	日本の近代 －司馬遼太郎『坂の上の雲』を読む②－
第５回	日本の近代 －司馬遼太郎『坂の上の雲』を読む③－
第６回	船曳建夫『日本人論再考』を読む
第７回	船曳建夫『日本人論再考』を読む
第８回	ナショナリズムの光と影 －姜尚中『在日』を読む①－
第９回	ナショナリズムの光と影 －姜尚中『在日』を読む②－
第 10 回	ナショナリズムの光と影 －姜尚中『在日』を読む③－
第 11 回	世界の中の日本文学 －村上春樹、カズオ・イシグロの小説から－
第 12 回	村上春樹の文学 －アメリカ・中国・韓国における受容－
第 13 回	村上春樹の文学 －『海辺のカフカ』を読む①－
第 14 回	村上春樹の文学 －『海辺のカフカ』を読む②－
第 15 回	村上春樹の文学 －『海辺のカフカ』を読む③－
第 16 回	後期試験

テキスト	司馬遼太郎『坂の上の雲』第１巻　新装版（文藝春秋）、村上春樹『海辺のカフカ』上巻（新潮文庫）
参考文献	資料を配布
評価の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。
学生へのメッセージ	

科　目　名	日本の文学Ⅱ	科目分類	教養・選択
		開講年次	2
英文表記	Japanese　literature	開講期間	後期
ふりがな	はなだ　ふじお	単位数	2
担当者名	花田　富二夫		
授業の到達目標及びテーマ	日本の歌舞伎と浄瑠璃		

【授業概要】本講義では「歌舞伎・浄瑠璃の世界」に焦点をあて、文学・能楽とも関連させながら学習を深める。歌舞伎では、歌舞伎十八番にも取り入れられた代表作品を扱う。浄瑠璃では、近松門左衛門の作品から心中物を扱う。なお、初めの数回は、歌舞伎及び浄瑠璃の発生と展開など、古典演劇の全般的内容に関する講義を行い、当芸能の有する特質などについて学習する。また、授業には適宜ビデオ教材などを用い、理解を深める予定である。

授業計画
第１回　浄瑠璃と歌舞伎
第２回　浄瑠璃の発生と展開
第３回　歌舞伎の発生と展開
第４回　歌舞伎十八番の作品―暫
第６回　歌舞伎十八番の作品―勧進帳１
第７回　歌舞伎十八番の作品―勧進帳２
第８回　歌舞伎十八番の作品―勧進帳３
第９回　歌舞伎十八番の作品―助六１
第 10 回　歌舞伎十八番の作品―助六２
第 11 回　浄瑠璃の作品―曾根崎心中１
第 12 回　浄瑠璃の作品―曾根崎心中２
第 13 回　浄瑠璃の作品―心中天の網島１
第 14 回　浄瑠璃の作品―心中天の網島２
第 15 回　浄瑠璃の作品―冥土の飛脚１
第 16 回　浄瑠璃の作品―冥土の飛脚２

テキスト	教員作成の配布プリントによる
参考文献	歌舞伎・浄瑠璃関係図書
評価の方法	試験ならびに出欠、レポート、授業時の鑑賞文などを総合評価する。
学生へのメッセージ	日本史、芸能史、文化史

科　目　名	地理学の基礎Ⅱ	科目分類	教養・選択
		開講年次	1
英文表記	GeographyⅡ	開講期間	後期
ふりがな	うえむら　やすゆき	単位数	2
担当者名	上村　康之		
授業の到達目標及びテーマ	日本の地誌と東アジアの地誌･日本とその周辺諸国の地誌について基本事項を理解する		

【授業概要】

この授業は、地理学（授業では地理学の基礎Ⅱ）を系統的に学ぶ前の基礎知識として、日本及び周辺諸国の地誌を学ぶものとします。日本地誌では、総論として日本の国土と自然の特徴をとらえたあと、各地方別にいくつかの地域をとりあげ産業、交通、文化などの視点から動的地誌の形をとった授業とします。外国地誌では、東アジア・ロシア（極東地域）の地誌をとりあげ、民族と国家の特色や課題、日本との関係に視点を置いた内容とします。

授業計画
第１回　地理学とは何か、日本の国土と自然１
第２回　日本の国土と自然２
第３回　北海道
第４回　東北
第５回　関東
第６回　東海
第７回　北陸・甲信越
第８回　近畿
第９回　中国・四国
第 10 回　九州
第 11 回　沖縄
第 12 回　現代の国家と民族問題
第 13 回　中国
第 14 回　韓国
第 15 回　ロシア極東地方・モンゴル
第 16 回　前期試験

テキスト	二宮書店『詳解現代地図 2010-2011』、2010 年、1,600 円
参考文献	授業中に紹介します。
評価の方法	定期試験と授業内レポート
学生へのメッセージ	地理学の基礎Ⅰ・Ⅱは通年で履修することを望みます。なお、教職科目として受講する学生は、特に目的意識を持って真摯な態度で授業に臨むことを希望します。

科　目　名	日本の歴史Ⅱ	科目分類	教養・選択
		開講年次	1
英文表記	Japanese History Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	わたなべ　　すぐる	単位数	2
担当者名	渡邉　俊		
授業の到達目標及びテーマ	①日本近世・近代史の把握　②日本に対する理解を深める ③天皇・朝廷とは日本史においてどのような存在であったのか		

【授業概要】

政治・経済・社会・文化などの観点から日本の歴史を概観する。近年の研究動向にもふれながら多角的に日本史を考察していきたい。後期は近世・近代史を扱う。

授業計画　タイトルおよびキーワード
第１回　ガイダンス：　今後の予定、参考文献の紹介など
第２回　戦国大名の登場：　室町幕府体制の分解
第３回　織豊政権①：　織田信長の政治構想と天皇・朝廷
第４回　織豊政権②：　豊臣秀吉の政治構想と天皇・朝廷
第５回　幕藩体制の成立：　徳川家康の政治構想と天皇・朝廷
第６回　幕藩体制の展開：　平和の到来、幕府体制の安定、武士の編成
第７回　幕藩体制の動揺：　財政再建政策
第８回　開国と幕藩体制の崩壊：　「異国」の脅威と日本
第９回　明治政府の成立①：　大政奉還とは何か、さまざまな政治体制構想
第 10 回　明治政府の成立②：　明治政府の政治構想
第 11 回　自由民権運動と大日本帝国憲法の制定：　岩倉使節団の派遣、立憲構想
第 12 回　政党政治と社会運動：　初期議会、立憲政友会、日清戦争
第 13 回　第一次世界大戦と恐慌：　日露戦争、第一次世界大戦の勃発、日本と韓国
第 14 回　満洲事変から日中戦争へ：　ワシントン体制、関東軍
第 15 回　アジア太平洋戦争：　戦時体制の強化、ポツダム宣言受諾へ
第 16 回　試験（論述形式）

テキスト	特に使用しない。適宜、レジュメを配布。
参考文献	佐々木潤之介ほか編『概論日本歴史』（吉川弘文館、2000 年）など。講義のなかで随時、紹介する。
評価の方法	試験（70%）・課題（25%）・出席（5%）。※私語厳禁。迷惑行為については厳正に対処する。
学生へのメッセージ	自ら積極的に学ぼうとする意欲的な学生を求む。

科　目　名	自然の科学Ⅱ	科目分類	教養・選択
		開講年次	1
英文表記	Natural Sciences II	開講期間	後期
ふりがな	むらなか　たかし	単位数	2
担当者名	村中　孝司		
授業の到達目標及びテーマ	テーマ：自然観・宇宙観と近代自然科学　宇宙の成り立ちと太陽系・地球、日本列島の特色について概観し、自然科学の本質と学問的な特色、科学的方法と論理的思考について修得する。		

【授業概要】宇宙が誕生しておよそ 140 億年、太陽系が誕生して 46 億年。現代人類は次々の科学的な発見や発明を繰り返して、多くの自然現象を明らかにしてきた。しかし、宇宙の広がりや誕生、生命の起源、数多くの自然現象の大部分が未解明である。そのような未知の自然現象に対して、科学者は自然現象に関する情報や問題点を発見、蓄積、整理し、分析することを通して仮説の検証を試みてきた。「自然科学」はいったいどのようにして生み出され、どのような道筋で発達してきたのか。また、人間社会において自然科学はどのような必要性に迫られてきたのだろうか。講義では、(1) 古代宇宙観と現代宇宙論、宇宙の誕生と進化、太陽系、地球について触れ、(2) 日本の自然の特色と美しい自然景観、豊かさなどの特色を紹介する。また、(3) 科学の誕生と発展、科学の要件と科学者の資質、科学的な研究の方法や考え方について考え、「自然科学」の人間社会における役割や科学的手法の重要性について考えることを目的とする。

授業計画

第 1 回　ガイダンス

第 2 回　宇宙(1)：古代の宇宙観と現代宇宙論　古代ギリシアの宇宙観と世界観、自然学～自然科学の対象としての宇宙

第 3 回　宇宙(2)：宇宙・天体の誕生　宇宙の誕生と進化、物質・光・重力、恒星の誕生と死・ブラックホール

第 4 回　宇宙(3)：時間と空間　空間・時間を自由に移動できるか？、地球外生命体は存在するか？

第 5 回　宇宙(4)：太陽系と地球　太陽系の構成要素、惑星、地球、プレートテクトニクス、火山と地震

第 6 回　日本列島(1)：世界と日本の気象・地理　日本列島の位置、気象、地理、地形

第 7 回　日本列島(2)：日本の森林 I　原生的自然・原生林と自然観、潜在的自然植生、自然景観と観光地

第 8 回　日本列島(3)：日本の森林 II　二次的自然・二次林と自然観、雑木林と植林地、人間と自然との利用しあう関係

第 9 回　日本列島(4)：日本の川と文化　回廊（コリドー）としての川、川からの恵みと農業の発達

第 10 回　自然科学とは何か(1)：自然科学の誕生　古代ギリシア自然学における天文学・物理学、化学、生物学、近代自然科学の誕生

第 11 回　自然科学とは何か(2)：科学の要件　「科学的」とは何か？、学問と科学の領域、近代自然科学の様々な分野

第 12 回　自然科学とは何か(3)：科学的方法、仮説と検証　「科学的」な研究法、論理、演繹と帰納、問題と仮説の発見

第 13 回　自然科学とは何か(4)：情報の分類と分析　情報の分類（元素の周期表、生物の分類と二名法）、情報の分析方法

第 14 回　自然観・自然思想(1)：風土と自然観　和辻哲郎『風土』、西洋と東洋の自然観、自然思想と近代自然科学

第 15 回　自然観・自然思想(2)：照葉樹林文化と農耕の起源　中尾佐助『栽培植物と農耕の起源』、人類と自然科学、毒と薬、食

第 16 回　試験

テキスト	配布資料
参考文献	中谷宇吉郎『科学の方法』、中尾佐助『栽培植物と農耕の起源』、佐藤勝彦『宇宙論入門』 佐々木高明『照葉樹林文化の道』、鈴木秀夫『森林の思考・砂漠の思考』
評価の方法	試験、レポート・ミニテスト(随時実施する)
学生へのメッセージ	「宇宙」や「自然」に対して、人間は何をどのように認識していたのか。「宇宙」の正体とはいったい何なのか。時空を自由に移動できるのだろうか。科学的に論理的に考えます。

科　目　名	倫理学Ⅰ	科目分類	教養・選択
		開講年次	2
英文表記	Ethics　Ⅰ	開講期間	後期
ふりがな	なかはし　まこと	単位数	2
担当者名	中橋　誠		
授業の到達目標及びテーマ	代表的な倫理学説を学習します。		

【授業概要】

自動車のない社会、畳のない社会、王様のいない社会はいままで実際に存在しましたが、倫理のない社会が存在したことはありません。今後もないでしょう。倫理がなければ、社会はありえません。もちろん、わたしたち自身の生活もありません。にもかかわらず、わたしたちは、たとえば人間関係において「これは良い」「これは駄目だ」など様々な倫理的な判断を日々くだしながらも、社会的生活を営むうえで不可欠な倫理的規則を自覚することがほとんどありません。これでは、わたしたちの人間関係もその場かぎりのものとなってしまうでしょう。そうならないためには、わたしたちが従ってしまっている倫理的規則を明確なものにすることが必要でしょう。これが授業の目標です。

授業計画
第１回　イントロダクション：殺人はすべて悪いのか。
第２回　倫理的自覚の発生条件
第３回　倫理学的思惟の萌芽
第４回　絶対的価値は存在するか。
第５回　絶対的価値は存在しないか。
第６回　一つしかない薬は誰に与えるべきか。（１）
第７回　一つしかない薬は誰に与えるべきか。（２）
第８回　一つしかない薬は誰に与えるべきか。（３）
第９回　嘘は許されないか。（１）
第 10 回　嘘は許されないか。（２）
第 11 回　嘘は許されないか。（３）
第 12 回　義務は何に由来するか。（１）
第 13 回　義務は何に由来するか。（２）
第 14 回　義務は何に由来するか。（３）
第 15 回　まとめ
第 16 回　試験

テキスト	なし
参考文献	適宜指示します。
評価の方法	平常点＋試験
学生へのメッセージ	講義形式ですが、積極的に発言してください。

科　目　名	環境のはなしⅡ	科目分類	教養・選択
		開講年次	2
英文表記	Ecology and Environmental Sciences II	開講期間	後期
ふりがな	むらなか　たかし	単位数	2
担当者名	村中　孝司		
授業の到達目標及びテーマ	テーマ：生態系・生物多様性の損失と食糧・農業問題 生態系や生物多様性をめぐる環境問題について認識することを目的とする。また、これらの問題を介して、自然公園や環境保全に関する制度や取り組み、食料生産等に関わる問題について理解を深める。		

【授業概要】豊かな自然環境は私たちにさまざまな物質、機能、文化などの恵みをはぐくんでくれる。そのような恵み、すなわち「生態系サービス」は、地域の生物多様性の価値を見いだすものである。しかし、近現代的な開発や土地利用形態の変化、外来生物の侵入と蔓延による自然生態系の損失は人間と自然との結びつきをいっそう希薄にするばかりか、人工物に囲まれた現代人はその危機感を十分に認識しているとはいえない。講義では、(1) 不可逆的な変化としての生態系・生物多様性の損失の実態、(2) 自然環境の保護・保全とそれらに係る問題、(3) 世界人口の増加と食糧・農業問題について紹介し、持続的利用とその方法について考察する。

授業計画
第 1 回　　ガイダンス
第 2 回　　自然環境と生態系　自然・生態系からの恵み、「生態系サービス」と生物多様性
第 3 回　　生物多様性の損失（1）　「種が絶滅すること」の意味、人間社会と生物多様性
第 4 回　　生物多様性の損失（2）　地球温暖化による影響、および開発、乱獲・過剰採集、分断・孤立化による問題
第 5 回　　生物多様性の損失（3）　二次的自然の管理放棄による問題
第 6 回　　生物多様性の損失（4）　人間により持ち込まれたもの、化学物質と外来生物の侵入による問題
第 7 回　　自然環境の保護と保全(1)　自然公園法、種の保存法、環境法令における問題、文化財と生物多様性
第 8 回　　自然環境の保護と保全(2)　開発と代償行為、環境影響評価、ミチゲーション、環境基準
第 9 回　　自然環境の保護と保全(3)　国土緑化、植樹・植林と環境に対する問題点
第 10 回　　自然環境の保護と保全(4)　保護と保全、再生と復元、環境教育と市民活動、環境の倫理
第 11 回　食糧と農業問題（1）　世界人口の増加と食糧・農業問題、食をめぐる問題・安全性、食品偽装
第 12 回　食糧と農業問題（2）　遺伝子組み換え作物、安全性と生態系への影響
第 13 回　食糧と農業問題（3）　狂牛病、鳥・豚インフルエンザ、新型インフルエンザの脅威
第 14 回　　林業に関わる問題　拡大造林と花粉症
第 15 回　　水産業に関わる問題　マグロとクジラ、食文化を脅かす環境問題
第 16 回　試験

テキスト	配付資料
参考文献	日高敏隆『生物多様性はなぜ大切か？』、湯本貴和『食卓から地球環境が見える』、石川徹也『日本の自然保護』、加藤則芳『日本の国立公園』ほか
評価の方法	試験、レポート・ミニテスト（随時実施する）
学生へのメッセージ	私たちが「環境に優しいこと」と思って行っている「自然保護活動」が、むしろ自然を損なっていることがしばしばあります。それは自然界や環境問題に対する認識の不正確さによるものです。環境問題に対する正しい認識を得ることができるような考え方を身につけます。

科　目　名	生活と政治Ⅱ	科目分類	教養・選択
		開講年次	1
英文表記	Life and Politics Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	あそむら　くにあき	単位数	2
担当者名	阿曽村　邦　昭		
授業の到達目標及びテーマ	政治を見る目を養う		

【授業概要】

「生活と政治Ⅰ」で得た知見をもとに、政治の実体的な過程と動態を学ぶ。政治を考える上での「文法」なり見方を身につける。各種公務員試験対策に役立つように工夫する。

授業計画
第１回　政党の役割
第２回　日本における政党と政治　（１）歴史的考案
第３回　（２）民主党中心の政権への交替
第４回　圧力団体
第５回　選挙（１）
第６回　選挙（２）
第７回　アスナディアと世論
第８回　世論に訴える手段のとしての公開討論（国会予算委員会での質疑応答など）
第９回　政治の仕組みと法　（１）日本国憲法と国会
第 10 回　（２）行政と内閣－官僚制の問題点－
第 11 回　（３）司法
第 12 回　（４）自治体の行政と法
第 13 回　社会階層と政治
第 14 回　戦後日本の政治過程概観
第 15 回　講義の総括と問題演習
第 16 回　試験

テキスト	中村　昭雄、基礎からわかる政治、声書房
参考文献	追って指示する。
評価の方法	出席と試験
学生へのメッセージ	（１）　政治問題に関する新聞、雑誌の記事、社説、論文などに目を通す。 （２）　お互いに意見を交換しつつ、自分なり考え方を持つようにつとめる。

科　目　名	過去から学ぶ政治の知恵Ⅱ	科目分類	教養・選択
		開講年次	1
英文表記	Modern Political History of Japan Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	あそむら　くにあき	単位数	2
担当者名	阿曽村　邦　昭		
授業の到達目標及びテーマ	今日の日本の礎を築いた明治時代の内政と外交を理解する		

【授業概要】

「過去から学ぶ政治の知恵Ⅰ」で得た知見をもとに、日本が内政を整備し、日清・日露の２つの戦争に勝利し、世界の列強の１つにのし上がった過程を理解する。

授業計画
第１回　自由民権運動
第２回　明治憲法制定に至る立憲思想
第３回　憲法と議会の発足
第４回　財政と産業発展（１）大隈財政
第５回　　（２）松方財政
第６回　条約改正の努力
第７回　日清戦争（１）
第８回　　（２）
第９回　日清戦争後の国民意識の高揚
第 10 回　日露戦争（１）
第 11 回　　（２）
第 12 回　　（３）
第 13 回　日露戦争後の対外関係（米国との関係悪化）
第 14 回　日露戦争後の国内民主化の停滞
第 15 回　近代的国家機構の整備と天皇制
第 16 回　試験

テキスト	牧原憲夫、民権と憲法（岩波新書）および原田敬一、日清・日露戦争（岩波新書）
参考文献	坂野潤治、近代日本の国家構想　1871 - 1936（岩波現代文庫）
評価の方法	出席と試験
学生へのメッセージ	教科書は必ず熟読。試験の際に教科書と筆記ノート持ち込み可。質問歓迎。映像活用する。

科　目　名	心と行動Ⅱ	科目分類	教養・選択
		開講年次	1
英文表記	Psychology & Behavior	開講期間	後期
ふりがな	ときつ　ゆうこ	単位数	2
担当者名	時津　裕子		
授業の到達目標及びテーマ	私たちの様々な行動を決定するルールやパターンについて、心理学的に理解し説明する力を養う。とくに対人関係や集団構造など、社会的文脈との関係に重点を置く。		

【授業概要】心と行動Ⅰでは、知覚や記憶、学習システムなど、私たちの基礎的な情報処理のメカニズムについて学び、それらと行動との関係を探った。こうした普遍的な「行動のルール」は一方で、対人関係や集団構造、文化的習慣など、社会的文脈の影響下で様々に変化する。本講義では、そのような視点から、社会生活を営む人間の行動理解に必要な知識・理論について学習する。

授業計画
第１回　対人認知・対人魅力（１）
第２回　対人認知・対人魅力（２）
第３回　非言語コミュニケーションの機能と性質（１）顔・表情
第４回　非言語コミュニケーションの機能と性質（２）視線
第５回　対人コミュニケーション能力の発達と障害
第６回　心理的摩擦と葛藤
第７回　説得技術と態度変容（１）
第８回　説得技術と態度変容（２）
第９回　集団と組織の心理（１）
第 10 回　集団と組織の心理（２）
第 11 回　ステレオタイプ
第 12 回　ジェンダー
第 13 回　文化に固有の心理
第 14 回　応用研究（１）「嘘」の心理学
第 15 回　応用研究（２）ヒューマン・エラーの心理学
第 16 回　試験

テキスト	とくに定めない（必要な資料は配付する）
参考文献	「影響力の武器」　R. B. チャルディーニ　（誠信書房）、「嘘とだましの心理学」箱田・仁平編（有斐閣）、「読む目・読まれる目」遠藤編（東京大学出版会）ほか、講義中にも紹介する。
評価の方法	期末筆記試験の成績によるが、ミニレポートや講義中に実施する課題への取り組み状況も考慮し、加点することがある。
学生へのメッセージ	皆さんの知的好奇心を刺激し、毎時間、少なくとも一つの新鮮な発見がある講義を目指したいと思います。講義時間中に心理テストなどの実習も多く採り入れますので、主体的に参加し学習する意思をもってきてください。

科　目　名	家族の危機と変容	科目分類	教養・選択
		開講年次	2
英文表記	Crises and Transformations of Family	開講期間	後期
ふりがな	いのうえ　ひろし	単位数	2
担当者名	井上　寛		
授業の到達目標及びテーマ	「家族」をテーマに、「社会学」とはどのような学問なのかを理解する		

【授業概要】

社会学を基礎から学ぶための科目です。社会学は、社会で起こっているさまざまな現象や問題を客観的な視点で考察する学問です。私たちにとってもっとも身近である社会集団といえる「家族」にスポットをあてて、ドラマやアニメに出てくる家族をヒントにしながら学んでいきます。

授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　社会学は面白い
第３回　いろいろな社会学
第４回　やさしい社会学理論の話
第５回　社会調査の重要性
第６回　家族の絆とは?
第７回　結婚の個人化
第８回　低出生社会
第９回　夫婦の関係
第 10 回　親子の関係
第 11 回　核家族化
第 12 回　脱近代家族の動き
第 13 回　家族の発達
第 14 回　家族旅行の社会学
第 15 回　まとめ・復習
第 16 回　定期試験

テキスト	講義内で適宜資料を配布
参考文献	宇都宮京子編『よくわかる社会学 第 2 版』ミネルヴァ書房　2006 年
評価の方法	定期試験と出席状況等により総合的に評価
学生へのメッセージ	社会学は、「家族」にとどまらず、みなさんの学んでいる〇〇学を「〇〇社会学」として応用できる万能な学問です。その面白さを伝えられる講義を目指します。

科　目　名	入門経済学	科目分類	専門・必修
		開講年次	1
英文表記	Basic　EconomicsⅡ	開講期間	後期
ふりがな	つかたに　ふみたけ	単位数	2
担当者名	塚　谷　文　武		
授業の到達目標及びテーマ	経済学の基礎を学ぶ		

【授業概要】

前期科目の現代社会と経済（必修）の講義を受けた学生を対象に、経済（学）の必須の基本用語を確実に身につけさせることを目的とした講義になります。また、2年次にマクロ経済学・ミクロ経済学を、学ぶ学生のために、入門から本格的な経済学の学習への橋渡しも目的としています。このため、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的理論の中から、エッセンス部分を取り出し、できるだけ平易にかみ砕いて丁寧に説明します。

授業計画

第1回　イントロダクション
第2回　ミクロ経済学の基礎（1）消費－何をどれだけ消費するか－　内容：予算制約線
第3回　ミクロ経済学の基礎（2）消費－何をどれだけ消費するか－　内容：無差別曲線
第4回　ミクロ経済学の基礎（3）消費－何をどれだけ消費するか－　内容：消費者の需要曲線
第5回　ミクロ経済学の基礎（4）生産－企業を経営する－　内容：等産出量曲線
第6回　ミクロ経済学の基礎（5）生産－企業を経営する－　内容：限界生産物、総費用曲線
第7回　ミクロ経済学の基礎（6）生産－企業を経営する－　内容：企業の供給曲線
第8回　ミクロ経済学の基礎（7）市場取引－買う人と売る人の出会い－　内容：市場の需要曲線
第9回　ミクロ経済学の基礎（8）市場取引－買う人と売る人の出会い－　内容：市場の供給曲線
第10回　ミクロ経済学の基礎（9）市場取引－買う人と売る人の出会い－　内容：市場均衡
第11回　ミクロ経済学の基礎（10）市場取引－買う人と売る人の出会い－　内容：需給曲線のシフト
第12回　マクロ経済学の基礎（1）景気－なぜ不況は起こるのか－　内容：国内総生産（GDP）
第13回　マクロ経済学の基礎（2）景気－なぜ不況は起こるのか－　内容：GDPと付加価値
第14回　マクロ経済学の基礎（3）景気－なぜ不況は起こるのか－　内容：三面等価の法則
第15回　まとめ
第16回　期末試験

テキスト	荒井一博・北村宏隆・信田強『はじめて学ぶ　経済学』中央経済社、2003年。
参考文献	講義中に適宜お知らせします。
評価の方法	期末試験（60%）、出席状況（30%）、小テスト（10%）を含めて、総合的に成績評価を行います。
学生へのメッセージ	講義では、経済に関する最新の話題を可能な限り取り上げます。皆さんも新聞やニュースを通じて、その話題について意識的に考えるようにしてください。講義内容の理解がより深まると思います。

科　目　名	ミクロ経済学	科目分類	専門・選択
		開講年次	2
英文表記	Microeconomics	開講期間	後期
ふりがな	きたの　ゆうじ	単位数	2
担当者名	北野　友士		
授業の到達目標及びテーマ	基本となる市場メカニズムを学び、応用となる独占、寡占、公共財、市場の失敗などの理解につなげる。		

【授業概要】

私たちは普段何気なく商品を購入しますが、それら商品の価格はどのように決まっているのでしょうか。この講義では、需要と供給に基づく価格決定の基本的メカニズムと、そのメカニズムが機能しない場合である独占、寡占、公共財、市場の失敗などについて学びます。

授業計画
第１回　イントロダクション―ミクロ経済学で学ぶ内容の概要―
第２回　ミクロ経済学とは―マクロ経済学との違いと分析対象―
第３回　需要と供給（1）需要・供給分析の基本
第４回　需要と供給（2）需要・供給分析の応用
第５回　需要曲線と消費者行動（1）需要曲線とは
第６回　需要曲線と消費者行動（2）需要曲線と消費者余剰
第７回　費用の構造と供給行動（1）供給曲線とは
第８回　費用の構造と供給行動（2）利潤最大化と供給行動
第９回　市場取引と資源配分―余剰分析の基本と応用―
第 10 回　独占と競争の理論（1）独占の理論
第 11 回　独占と競争の理論（2）完全競争と独占的競争
第 12 回　ゲームの理論入門―寡占的な産業の分析―
第 13 回　市場の失敗（1）外部効果
第 14 回　市場の失敗（2）公共財
第 15 回　ミクロ経済学のまとめ
第 16 回　期末試験

テキスト	伊藤元重『入門経済学＜第 3 版＞』日本評論社
参考文献	講義中に適宜紹介します。
評価の方法	出席、小テスト（3～4 回実施予定）、および期末試験により評価。講義中の私語は減点対象。
学生へのメッセージ	この講義を通して普段の行動を少しずつでも経済学的にとらえられるようになってもらえたらと思います。

科　目　名	財政と国民生活	科目分類	専門・選択
		開講年次	2
英文表記	Public FinanceⅡ	開講期間	後期
ふりがな	つかたに　ふみたけ	単位数	2
担当者名	塚　谷　文　武		
授業の到達目標及びテーマ	少子高齢化社会における財政の役割を理解する		

【授業概要】

「財政」とは、国や地方自治体など公共部門の経済活動です。われわれ国民の生活は、その存在をぬきにして成り立つことができないほど、密接な関わりをもっています。人口減少社会が到来し、今後も少子高齢化が進行する現代社会において、社会保障財政に関する諸問題を明らかにし、その対策について考えます。

授業計画

第 1 回　イントロダクション　内容：少子高齢化の現状
第 2 回　21 世紀の市場社会と福祉国家（1）　内容：日本国憲法と福祉国家
第 3 回　21 世紀の市場社会と福祉国家（2）　内容：高齢化率と後期高齢者
第 4 回　21 世紀の市場社会と福祉国家（3）　内容：社会保障システムの全体像
第 5 回　年金システム（1）　内容：　年金システムの全体像
第 6 回　年金システム（2）　内容：　年金システムの問題点
第 7 回　医療保険（1）　内容：　高齢化と国民医療費の膨張
第 8 回　医療保険（2）　内容：　医療保険システムの地域化と地方分権
第 9 回　介護保険制度と地域（1）　内容：　介護保険制度の成立過程と制度の全体像
第 10 回　介護保険制度と地域（2）　内容：　介護保険財政と地域間所得再分配
第 11 回　日本の地方財政の枠組み（1）　内容：　地方公共団体と住民の福祉
第 12 回　日本の地方財政の枠組み（2）　内容：　現代福祉国家における地方財政の位置
第 13 回　社会保障と地域（1）　内容：　20 世紀型福祉国家の形成と鹿角市の財政構造
第 14 回　社会保障と地域（2）　内容：　鹿角市の国民健康保険・老人保健制度・介護保険の特別会計
第 15 回　総括と展望
第 16 回　期末試験

テキスト	渋谷博史・櫻井潤・塚谷文武編『福祉国家と地域と高齢化』学文社、2009 年。
参考文献	講義中に適宜お知らせします。
評価の方法	期末試験（60%）、出席状況（30%）、レポート提出状況（10%）を含めて、総合的に成績評価を行います。
学生へのメッセージ	より体系的に財政学を学ぶために、財政のしくみ（前期）、地方の財政（前期、3 年次開講）等の科目の受講をお薦めします。

科　目　名	銀行の業務	科目分類	専門・選択
		開講年次	2
英文表記	Money and Banking	開講期間	後期
ふりがな	きたのゆうじ	単位数	2
担当者名	北野　友士		
授業の到達目標及びテーマ	貨幣の機能を学び、銀行や信用組合などの金融機関の（地域）社会における役割を理解する。		

【授業概要】

銀行などの金融機関が家計からお金を預かり、企業へ貸し出すという当たり前のことができなくなったとき、金融危機が訪れます。この講義では、金融機関の業務とその社会的役割について学びます。なお、第 10 回～第 12 回の 3 回分は信用組合から講師をお招きし、実務的な話を聞く予定です。

授業計画
第１回　イントロダクション―銀行の業務の概要―
第２回　貨幣の機能と銀行
第３回　決済と銀行システム
第４回　銀行による信用創造
第５回　金融仲介機関としての銀行
第６回　景気変動と金融
第７回　金融政策の目的と手段
第８回　金融政策のメカニズム
第９回　地域金融と地域金融機関
第 10 回　信用組合講師による講義（1）…（※参考、昨年度は「信用組合とは」）
第 11 回　信用組合講師による講義（2）…（※参考、昨年度は「信用組合の実際の仕事」）
第 12 回　信用組合講師による講義（3）…（※参考、昨年度は「信用組合の地域社会における役割」）
第 13 回　デフレ不況とゼロ金利政策および量的緩和政策
第 14 回　サブプライムローン問題と金融政策
第 15 回　銀行の業務まとめ
第 16 回　期末試験

テキスト	特になし。講義中にプリントを配布します。
参考文献	講義中に適宜紹介します。
評価の方法	出席、小テスト、レポート、および期末試験により評価。講義中の私語は減点対象。
学生へのメッセージ	金融機関は経済において非常に重要な存在なので、就職希望先にとらわれず受講してもらえたらと思います。

科　目　名	資本主義経済のしくみ　Ⅱ	科目分類	専門・選択
		開講年次	2
英文表記	Capitalism Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	しまだ　こうや	単位数	2
担当者名	嶋田　耕也		
授業の到達目標及びテーマ	20 世紀に入って、資本主義経済がどのような変貌を示すのか、そしてそれが現代にいかなる作用を及ぼしているのか。現代経済を理解するための指針を提供したい。		

【授業概要】20 世紀は、企業規模の拡大とともに、経済政策が自由主義政策から帝国主義政策へと一変する。この大きな変化は新たな経済概念と経済活動を生み出し、また新たな経済理論を生み出す。この時代の経済を理解せずして現代を理解することはできない。

授業計画
第１回　第二次産業革命
第２回　資本規模の巨大化　カルテル・トラスト・コンツェルン
第３回　銀行の役割と株式会社制度
第４回　資本輸出と帝国主義政策
第５回　20 世紀における経済学の課題
第６回　修正資本主義・ケインズ（1）
第７回　修正資本主義・ケインズ（2）
第８回　冷戦体制とパックス・アメリカーナ
第９回　第二次大戦後の国際経済（1）
第 10 回　第二次大戦後の国際経済（2）
第 11 回　1970 年代初頭の二つのショック
第 12 回　不確実性の時代　変動相場制
第 13 回　1980 年代の世界経済
第 14 回　1990 年代の世界経済
第 15 回　21 世紀における経済学の課題
第 16 回　テスト

テキスト	使用せず。プリント配布、および板書。
参考文献	授業時に指示します。
評価の方法	出席数とテストの点数
学生へのメッセージ	平成生まれの皆さんに、是非昭和およびそれ以前の歴史を理解してもらいたい。

科　目　名	国際経済学Ⅱ	科目分類	専門・選択
		開講年次	3
英文表記	International Economics Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	まえだ　なおや	単位数	2
担当者名	前田　　直哉		
授業の到達目標及びテーマ	国際貿易の基礎理論と第二次世界大戦後の世界経済の動向を学ぶ。		

【授業概要】

1990 年代に入って経済のグローバリゼーションが急速に進んだ。この現象を理解するためには国際経済学の理論のみならず、その歴史･制度についても学習することが必要である。本講義の目的は国際貿易の基礎理論と第二次世界大戦後の世界経済の動向を学ぶことにある。なお、国際貿易の基礎理論に関する理解を深めるため、講義中に計算と質問を適宜行う。

授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　貿易の基本原理：リカードの比較生産費説(1)
第３回　リカードの比較生産費説(2)
第４回　リカードの比較生産費説(3)
第５回　貿易の利益：自由貿易の厚生分析(1)
第６回　自由貿易の厚生分析(2)
第７回　完全競争と貿易政策：小国開放経済と関税政策(1)
第８回　小国開放経済と関税政策(2)
第９回　GATT から WTO へ(1)
第 10 回　GATT から WTO へ(2)
第 11 回　アメリカと世界経済(1)：IMF 体制の成立
第 12 回　アメリカと世界経済(2)：IMF 体制下のドル危機
第 13 回　アメリカと世界経済(3)：IMF 体制の崩壊
第 14 回　アメリカと世界経済(4)：変動相場とスタグフレーション
第 15 回　まとめ
第 16 回　定期試験

テキスト	大川昌幸(2007)『コア･テキスト国際経済学』新世社。
参考文献	特に指定しない。
評価の方法	出席回数、小テスト(3 回)、定期試験、平常点
学生へのメッセージ	授業の進め方と評価方法については初回のガイダンスで詳しく説明する。また、テキストを必ず持参すること。

科　目　名	日本経済の歩みⅡ	科目分類	専門・選択
		開講年次	2
英文表記	Japanese Economic History Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	すずき　たつろう	単位数	2
担当者名	鈴木　達郎		
授業の到達目標及びテーマ	明治維新期と産業革命期の日本経済		

【授業概要】

本講義が対象とする時期は、1853 年のペリー来航から 1910 年の韓国併合までの明治維新期、産業革命期である。「龍馬伝」と「坂の上の雲」の時代でもある。この時期に日本は近代化へのテイクオフに一応の成功を収めた。ただしその過程は、手放しで賞賛されることでもなければ、一方的な非難があびせられることでもない。本講義の課題は、なぜ日本がテイクオフに成功することができたのかを経済史の視点から考察し、戦前の日本経済の歴史的特質を明らかにすることにある。

授業計画
第１回　開国の経済的影響
第２回　開国の政治的影響――幕末の政治過程
第３回　地租改正
第４回　秩禄処分
第５回　殖産興業
第６回　明治国家の成立
第７回　小括――明治維新期の日本経済の特質
第８回　産業革命の開始
第９回　重工業の展開
第 10 回　鉱山業の展開――財閥論
第 11 回　紡績業の展開
第 12 回　製糸業の展開
第 13 回　農業の展開――地主制論
第 14 回　植民地
第 15 回　小括――産業革命期の日本経済の特質
第 16 回　定期試験

テキスト	テキストは使用しない。講義のなかで資料を配付する。
参考文献	講義のなかで紹介する。
単位認定の方法	書き込み式プリントの提出および定期試験によって総合的に判定する。
学生へのメッセージ	戦争の時代と戦後の混乱の時代、歴史は実に躍動的です。

科　目　名	欧米の産業と交易の歴史　Ⅱ	科目分類	専門・選択
		開講年次	2
英文表記	European and American Economic History Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	しらかわ　きんや	単位数	2
担当者名	白川　欽哉		
授業の到達目標及びテーマ	19 世紀末から 20 世紀にかけての世界経済の変化の歴史を学ぶ		

【授業概要】本講義では、20 世紀の欧米経済のダイナミックな変化の原因とその影響を分析します。20 世紀は、重化学工業の生成、巨大企業の登場、二つの世界大戦、帝国主義、福祉国家の進展、社会主義の盛衰といった特徴を有しています。それらを念頭に、講義は構成されています。講義中に聞き逃した点、理解しづらい点があった場合には申し出てください。

授業計画
第 1 回　20 世紀の世界経済（概観）
第 2 回　アメリカ合衆国の成立と農工間分業
第 3 回　１９世紀末大不況とヨーロッパ経済
第 4 回　第二次産業革命とヨーロッパ
第 5 回　第二次産業革命とアメリカ合衆国
第 6 回　巨大企業の時代
第 7 回　イギリスの地位低下とその背景
第 8 回　植民地獲得をめぐる競争
第 9 回　第一次世界大戦とロシア革命
第 10 回　大戦間期の世界経済
第 11 回　世界大恐慌と世界経済
第 12 回　ナチスとニューディール（１）
第 13 回　ナチスとニューディール（２）
第 14 回　第二次世界大戦後の世界経済
第 15 回　総まとめ
第 16 回　試験

テキスト	石坂昭雄・舟山榮一・宮野啓二・諸田實編著『西洋経済史』（有斐閣）
参考文献	東京大学社会科学研究所編『ナチス経済とニューディール』（東京大学出版会）
評価の方法	筆記試験の点数と出席率の総合評価（出席 3 分の２以上の学生のみ評価します）
学生へのメッセージ	私たちが経済学や経営学で学ぶ理論を生んだ「20 世紀の現実」をみつめましょう！

科　目　名	地域の経済政策	科目分類	専門・選択
		開講年次	3
英文表記	Regional　Policy　of　Economy	開講期間	後期
ふりがな	のぐち　ひでゆき	単位数	2
担当者名	野口　秀行		
授業の到達目標及びテーマ	勝ち組みと負け組み 地域経済の優勝劣敗		

【授業概要】

本講義では、なぜ過疎が進むのか？なぜ都市と地方との間に経済格差が生まれるのか？経済のグローバル化がなぜ地域経済を疲弊させているのか？これらの問題を解決していくためには、地域の経済政策は、どうあるべきなのかについ学ぶ。

授業計画	
第１回	勝ち組みの代表亀山モデル
第２回	産業構造転換と地域経済（浜松に見る地域の産業政策）
第３回	地域経済と産業インフラ整備Ⅰ（鉄道・港湾・空港・高速道路）
第４回	地域経済と産業インフラ整備Ⅱ（高速インターネット・大学）
第５回	地方自治体の産業政策の放棄
第６回	産官学連携とインキュベーション
第７回	マイケル・ポーターの産業クラスター論
第８回	９０年代米国におけるクラスター形成
第９回	わが国における地域クラスター形成
第 10 回	インテリジェントコスモスの挫折と東北の先端産業
第 11 回	創造化時代・知識経済への転換（１）
第 12 回	創造化時代・知識経済への転換（２）
第 13 回	秋田の老舗企業と時代への対応は
第 14 回	秋田のオンリーワン企業（世界的な高シェア企業群）
第 15 回	創造化時代・知識経済への転換（３）
第 16 回	期末試験

テキスト	プリント配布
参考文献	追って連絡します
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。
学生へのメッセージ	経済を面白く楽しく学びます

科　目　名	経済学の歴史　Ⅱ	科目分類	専門・選択
		開講年次	3
英文表記	The History of Economic Thought　Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	しまだ　こうや	単位数	2
担当者名	嶋田　耕也		
授業の到達目標及びテーマ	20 世紀を代表する経済理論家、ケインズ、シュンペーター、レオンチェフ、サミュエルソンを取り上げました。必ずや経済を一層身近なものと感じるはずです。		

【授業概要】ケインズによって現代の経済政策、および管理通貨制度の本質を、シュンペーターによって資本主義発展のダイナミズムを、レオンチェフによって産業間の結びつきを、サミュエルソンによってミクロとマクロの総合の本質を勉強します。

授業計画
第１回　ケインズとその時代
第２回　ケインズ理論（1）
第３回　ケインズ理論（2）
第４回　ケインズ理論（3）
第５回　ケインズ理論（4）
第６回　シュンペーターの経済理論（1）
第７回　シュンペーターの経済理論（2）
第８回　レオンチェフと産業連関表
第９回　産業連関論（1）
第 10 回　産業連関論（2）
第 11 回　産業連関論（3）
第 12 回　産業連関論（4）
第 13 回　サミュエルソンの新古典派総合（1）
第 14 回　サミュエルソンの新古典派総合（2）
第 15 回　経済学の歴史のまとめ
第 16 回　テスト

テキスト	使用せず。プリント配布、および板書。
参考文献	授業時に指示します。
評価の方法	出席回数とテストの点数。
学生へのメッセージ	20 世紀の経済学は非常に実践的なものになってきます。数学も取り入れながら学んでいきましょう。

科　目　名	年金・保険を考える	科目分類	専門・選択
		開講年次	3
英文表記	Social Security	開講期間	後期
ふりがな	ふじもと　つよし	単位数	2
担当者名	藤本　　剛		
授業の到達目標及びテーマ	健やかで豊かな暮らしのために		

【授業概要】20 歳になると学生であっても、国民年金の保険料を納める義務が生じます。特例制度の適用申請を行って、とりあえずは納付を先延ばしした人もいるでしょう。老後や障害に備えた保障の準備は基本的に全国民に求められています。病気やケガに対する備えも同様です。社会保険のシステムを用いた社会保障制度は国民の健やかで豊かな生活の実現を目指しています。制度はかなり複雑で、時代に応じて変化も大きいですが、現状はどうなのか。将来はどうなるのか。国民の年金不信や医療費の負担増など、様々な課題があるなかで、私たちの将来の方向を共に考えていく科目です。

授業計画
第１回　社会保障とは何か・その歴史と背景
第２回　社会保障の体系・社会保険について
第３回　公的年金制度①（制度と内容１）
第４回　公的年金制度②（制度と内容２・背景）
第５回　公的年金制度③（現状と課題）
第６回　企業年金①（制度と内容）
第７回　企業年金②（現状と課題）
第８回　公的扶助①（意義・原理・原則）
第９回　公的扶助②（現状と課題）
第 10 回　公的医療保険①（制度の概要）
第 11 回　公的医療保険②（健康保険）
第 12 回　公的医療保険③（国民健康保険・老人保健）
第 13 回　公的医療保険④（薬事）
第 14 回　公的介護保険（制度の概要）
第 15 回　公的介護保険（現状と課題）
第 16 回　まとめとテスト

テキスト	『公務員Ｖテキストシリーズ　社会政策』TAC 出版
参考文献	『厚生労働白書』各年版
単位認定の方法	出席率、試験、レポート、メッセージカードの総合評価
学生へのメッセージ	

科　目　名	経営学 Ⅱ	科目分類	専門・必修、選択
		開講年次	1
英文表記	Business Administration　Ⅱ	開講期間	後期
ふりがな	やまだ ひろみ	単位数	2
担当者名	山 田 洋 巳		
授業の到達目標及びテーマ	経営学を体系的に理解する。		

【授業概要】

本講義は、2 年次以降の専門科目への準備として、経営学Ⅰの復習に加えて、企業の国際化、情報管理、経営計画、目標管理、リスクマネジメント、企業の社会的責任などについて解説します。

（受講者の理解度や要望によりシラバス変更の可能性があります。）

授業計画
第１回　会社の形態、所有と支配の分離
第２回　経営史の世界
第３回　経営組織
第４回　経営戦略論
第５回　国際経営
第６回　人事労務管理／人的資源管理
第７回　マーケティング
第８回　財務管理
第９回　情報管理
第 10 回　経営計画
第 11 回　経営コントロール（目標管理）
第 12 回　財務報告
第 13 回　企業監査
第 14 回　リスクマネジメント
第 15 回　企業の社会的責任
第 16 回　予備日（期末試験）

テキスト	山口大学経済学部経営学科編，『経営学をやさしく学ぶ』，中央経済社，2005
参考文献	
評価の方法	出席回数・試験などから総合的に判断します。
学生へのメッセージ	本講義で経営学を体系的に理解することは、2 年次以降に専門科目を受講する上で役立つと思います。

科　目　名	ビジネスの心理	科目分類	専門・選択
		開講年次	3
英文表記	Business Psychology	開講期間	後期
ふりがな	ときつ　ゆうこ	単位数	2
担当者名	時津　裕子		
授業の到達目標及びテーマ	ビジネス・シーンに活用可能な，人間行動のメカニズム・性質についての知識を得る		

【授業概要】我々の行動は，知的情報処理システムや対人コミュニケーション上の原理・原則など，心理学的知識と思考を通じてよりよく理解し予測することが可能であるが，ビジネス・シーンもその例外ではない．前半ではビジネスの対象となる消費者・顧客の心理と行動に焦点を当てる．後半ではビジネスの起点となる組織・職場と業務をめぐる心理学的な諸問題をとりあげる．本講義を通じて，将来ビジネスの現場で活用できる実践的な知識と方法論を学んでほしい。

授業計画
第１回　イントロダクション（ビジネス・シーンをめぐる心理）
第２回　【消費者の心理と行動】　消費者の意思決定（消費行動の基礎モデル）
第３回　【消費者の心理と行動】　宣伝・広告の効果
第４回　【消費者の心理と行動】　セールスに活かす説得技術①
第５回　【消費者の心理と行動】　セールスに活かす説得技術②
第６回　【消費者の心理と行動】　官能評価と製品開発
第７回　【仕事・職場をめぐる心理】　集団・組織の心理①
第８回　【仕事・職場をめぐる心理】　集団・組織の心理②
第９回　【仕事・職場をめぐる心理】　仕事に対する意欲・動機付け
第 10 回　【仕事・職場をめぐる心理】　リーダーシップと士気
第 11 回　【仕事・職場をめぐる心理】　ヒューマンエラーとリスクマネジメント①
第 12 回　【仕事・職場をめぐる心理】　ヒューマンエラーとリスクマネジメント②
第 13 回　【仕事・職場をめぐる心理】　仕事とジェンダー・性役割
第 14 回　【仕事・職場をめぐる心理】　職場のメンタルヘルスとサポート
第 15 回　総括
第 16 回　試験

テキスト	とくに定めない（必要な資料は配付する）
参考文献	講義の中で紹介する
評価の方法	期末筆記試験（論述式，資料類の持ち込みは認めない）の成績によるが，ミニレポートや講義中に実施する課題への取り組み状況も考慮し、加点することがある。
学生へのメッセージ	講義時間中に心理テストや実習課題も可能な限り採り入れる予定です。主体的に参加し学習する意思をもってきてください。

科　目　名	刑法の基礎 （刑法総論）	科目分類	専門・必修
		開講年次	1
英文表記	Criminal Law (general parts)	開講期間	後期
ふりがな	あきやま えいいち	単位数	4
担当者名	秋山 栄一		
授業の到達目標及びテーマ	犯罪論の基本的理解		

【授業概要】犯罪と刑罰に関する法律である刑法は、私達の日常生活に密接にかかわっている。刑法は身近な存在でなければならない。市民に理解された行為規範として機能すべきである刑法は、その理論性、思想性を前提とした学説の対立の激しさの故に、敬遠されがちである。そこで、本講義では、基本用語の理解から刑法の機能や犯罪の理論的把握、刑罰の根拠などの基本的問題について理解しやすくするために、判例の動向や事例を活用して段階的に議論を進めていく。また、講義の進行方式としては、毎回レジュメを配布し、その流れに従っていく予定であることから、必ずしも、指定のテキストの順序に従うものとは限らないことがあることをお断りしておく。

授業計画

第１回　講義ガイダンス　刑法を学ぶ前提としての基本概念の理解	第 17 回 違法性の本質
第２回　刑法及び刑法学の概念　刑法の意義、規範、機能	第 18 回 違法性阻却事由①　正当防衛
第３回　刑法及び刑法理論　刑法思想・学説史	第 19 回 違法性阻却事由②　緊急避難
第４回　刑法の基本主義罪　刑法定主義、責任主義等	第 20 回 違法性阻却事由③　正当行為
第５回　犯罪論の基礎と体系	第 21 回 違法性をめぐる諸問題
第６回　構成要件の意義と機能	第 22 回 責任論の本質と構造
第７回　基本的構成要件該当性①　実行行為	第 23 回 責任能力
第８回　基本的構成要件該当性②　因果関係	第 24 回 責任故意・過失と違法性の意識、錯誤
第９回　基本的構成要件該当性③　構成要件的故意・過失、錯誤	第 25 回 期待可能性
第 10 回 修正された構成要件該当性①　未遂犯の基礎	第 26 回 小括
第 11 回 修正された構成要件該当性②　共犯論の基礎、共同正犯	第 27 回 罪数論
第 12 回 修正された構成要件該当性③　教唆犯	第 28 回 刑罰論の本質
第 13 回 修正された構成要件該当性④　従犯	第 29 回 刑の種類、刑の量定、執行
第 14 回 修正された構成要件該当性⑤　共犯をめぐる諸問題	第 30 回 後半の総括
第 15 回 前半の総括	第 31 回 全体の総括
第 16 回 試験①	第 32 回 試験②

テキスト	大塚仁『刑法入門〔第４版〕』有斐閣 2003
参考文献	大塚仁『刑法概説第〔第４版〕』有斐閣 2008、西田典之・山口厚編『刑法判例百選Ⅰ〔第６版〕』有斐閣
評価の方法	２/３以上の出席を前提として、出席３０％、試験７０％の割合で、厳正に評価する
学生へのメッセージ	最新の六法・ノート・毎回配布するレジュメを必携のこと、また積極的な講義参加を望む

科　目　名	生活と民法　Ⅱ	科目分類	専門・選択
		開講年次	3
英文表記		開講期間	後期
ふりがな	なかざと　まこと	単位数	2
担当者名	中里　　真		
授業の到達目標及びテーマ	取引や、家族に関する民法の具体的な適用場面について学ぶ		

【講義概要】
我々が普段行っている消費活動は、その多くが民法に規律されます。本講義では、より具体的な取引の場面における民法の適用可能性を学ぶため、法律が苦手でも各テーマに関心がある場合は、接しやすいと思います。

講義計画
第１回　生活と民法Ⅱで取り扱う内容・ガイダンス
第２回　不動産の売買と登記
第３回　賃貸借契約と借家
第４回　雇用と請負と委任
第５回　組合と講とネズミ講
第６回　割賦販売と消費者問題
第７回　特定商取引に関する法律
第８回　海外パック旅行契約
第９回　自由で公正な競争秩序
第 10 回　金融取引投機的取引と現代社会
第 11 回　カップルと民法①パートナーと暮らす
第 12 回　カップルと民法②パートナーと別れる
第 13 回　子どもと民法①子どもの親になる
第 14 回　子どもと民法②子どもを育てる
第 15 回　期末試験
第 16 回　補講：相続分の計算方法

テキスト	石田 著・田中 補訂『消費者民法のすすめ(補訂 3 版)』(法律文化社、2008)、六法
参考文献	大村敦志『生活民法入門』(東京大学出版会、2003) 長尾治助 編『レクチャー消費者法（第 4 版)』(法律文化社、2008)
評価の方法	試験（途中小試験を行うこともある）と受講状況等で評価（2/3 以上の出席は必須）
学生へのメッセージ	基本原則やテーマについては、既に「生活と民法Ⅰ」で取り扱っているため、それらの基礎知識が備わっていることを前提とした講義を行います。受講者はそのつもりでいてください。

科　目　名	家族法の基礎	科目分類	専門・選択
		開講年次	3
英文表記	Family Law	開講期間	後期
ふりがな	とよ　だ　まさ　あき	単位数	4
担当者名	豊　田　正　明		
授業の到達目標及びテーマ	得てして常識で考えがちな家族法を理論的に考える 身近な法律としての家族法		

【授業概要】

本講義は、講義形式で行われるのを基本とします。講義では、親族法・相続法について基本的な理解を深め、問題となっているところにも触れることにより、理解を深めることを目的とします。

授業計画	
第１回　ガイダンス、親族相続法の史的素描	第 17 回　相続の意義
第２回　氏と戸籍	第 18 回　相続権とその侵害
第３回　家庭内の揉め事とその処理	第 19 回　相続人とその順位
第４回　婚姻	第 20 回　相続欠格と相続人の廃除
第５回　婚姻の無効・取り消し	第 21 回　相続財産の範囲
第６回　婚姻の効力	第 22 回　法定相続分、具体例の計算
第７回　婚姻の解消	第 23 回　特別受益者の相続分
第８回　内縁とその保護	第 24 回　寄与分
第９回　婚姻法改正案等	第 25 回　遺産分割
第 10 回　親子	第 26 回　相続の承認・放棄
第 11 回　養子	第 27 回　相続人不存在・特別縁故者
第 12 回　親権	第 28 回　遺言の方式・効力・書き方
第 13 回　後見、保佐、補助	第 29 回　遺留分
第 14 回　扶養	第 30 回　遺留分を侵害された場合
第 15 回　復習①	第 31 回　復習②
第 16 回　中間試験	第 32 回　期末試験

テキスト	有斐閣Ｓシリーズ『民法Ｖ』第５版　有斐閣
参考文献	家族法判例百選　第７版　有斐閣
評価の方法	出席および定期試験による
学生へのメッセージ	講義中に質問をしますので、予習は不可欠です。

科　目　名	請求権の性質	科目分類	専門・必修
		開講年次	2
英文表記	Law of Obligations(General)	開講期間	後期
ふりがな	メン　カンソプ	単位数	4
担当者名	孟　　觀燮		
授業の到達目標及びテーマ	抽象的な債権総論の条文が、人間の生活の中に具体的に実現されていることを勉強します。		

【授業概要】
請求権の性質では、民法第三編「債権」第一章の総則を勉強します。
債権は、「特定の人が他の特定の人に対して、一定の行為を請求できる」と定義されます。
特定の人が特定の人に対して、どのような請求ができるのか、一緒に考えてみましょう。

授業計画

第１回　債権の定義Ⅰ	第 17 回　詐害行為取消権Ⅰ
第２回　債権の定義Ⅱ	第 18 回　詐害行為取消権Ⅱ
第３回　さまざまな種類の債権	第 19 回　第三者による債権侵害
第４回　特定物債権	第 20 回　債権譲渡Ⅰ
第５回　種類債権	第 21 回　債権譲渡Ⅱ
第６回　金銭債権	第 22 回　債務引受
第７回　利息債権、選択債権	第 23 回　弁済Ⅰ
第８回　債務不履行Ⅰ	第 24 回　弁済Ⅱ
第９回　債務不履行Ⅱ	第 25 回　弁済Ⅲ
第 10 回　債務不履行Ⅲ	第 26 回　相殺
第 11 回　債務不履行Ⅳ	第 27 回　更改・免除・混同
第 12 回　債権の第三者に対する効力の概観	第 28 回　多数当事者の債権債務関係Ⅰ
第 13 回　債権者代位権Ⅰ	第 29 回　多数当事者の債権債務関係Ⅱ
第 14 回　債権者代位権Ⅱ	第 30 回　多数当事者の債権債務関係Ⅲ
第 15 回　前期分のまとめ	第 31 回　後期分のまとめ
第 16 回　テスト	第 32 回　テスト

テキスト	角　紀代恵著「債権総論」(新世社)
参考文献	
評価の方法	試験（前期・後期試験－総点 80 点）と出席状況（欠席２回まで－20 点。欠席３回以上４回まで－15 点。欠席５回以上６回まで－10 点。欠席７回以上９回まで－5 点。10 回以上―試験資格なし）
学生へのメッセージ	いつも考えてください。なぜこのような条文が存在するのかを。

科　目　名	犯罪の原因と対策	科目分類	専門・選択
		開講年次	3
英文表記	Criminology	開講期間	後期
ふりがな	ちゅうじょう　しんいちろう	単位数	4
担当者名	中條 晋一郎		
授業の到達目標及びテーマ	刑事政策の諸理論と実践を学び、理解する		

【授業概要】

刑罰法令を定めるだけでは、犯罪対策として十分ではない。逮捕、刑事裁判手続き、そして刑の執行という一連の刑事司法手続きが、法律や規則に基づき適切に行われなければ、犯罪をなくすことはできない。そして、そのプロセスの根底には、再犯を防ぎ、犯罪者の社会復帰を支援するという社会復帰理念がある。この講義では、刑事政策の理念と実践を、歴史や犯罪現象の分析などを交えながら解説する。

授業計画

第１回　この講義についてのガイダンス／刑事政策とは何か	第 17 回　刑事司法・少年司法機関
第２回　刑事政策の歴史(1)～近代刑事政策の誕生～	第 18 回　刑罰(1)　～生命刑～
第３回　刑事政策の歴史(2)　~現代の刑事政策理論の動向~	第 19 回　刑罰(2)　～自由刑～
第４回　犯罪の原因論(1)	第 20 回　刑罰(3)　～財産刑～／　保安処分
第５回　犯罪の原因論(2)	第 21 回　犯罪者処遇の意義
第６回　わが国の犯罪情勢～犯罪統計から～	第 22 回　監獄法改正と犯罪者処遇の新展開
第７回　各種犯罪の動向(1)　～交通犯罪～	第 23 回　施設内処遇
第８回　各種犯罪の動向(2)　～薬物犯罪～	第 24 回　社会内処遇
第９回　各種犯罪の動向(3)　～組織犯罪～	第 25 回　少年保護手続き(1)
第 10 回　各種犯罪の動向(4)　～高齢者犯罪～	第 26 回　少年保護手続き(2)
第 11 回　各種犯罪の動向(5)　～外国人犯罪～	第 27 回　少年保護手続き(3)
第 12 回　各種犯罪の動向(6)　～企業犯罪～	第 28 回　犯罪被害者の支援と法的地位(1)
第 13 回　各種犯罪の動向(7)　～性犯罪～	第 29 回　犯罪被害者の支援と法的地位(2)
第 14 回　各種犯罪の動向(8)　~家庭内・近親者間犯罪~	第 30 回　刑事司法の国際化と犯罪対策
第 15 回　少年非行の現状	第 31 回　期末試験
第 16 回　刑事制裁総説　～刑罰・処分～	第 32 回

テキスト	守山正・安部哲夫（編著）『ビギナーズ刑事政策』（成文堂・2008 年）
参考文献	矢島正見他（編著）『改訂版よくわかる犯罪社会学入門』（学陽書房・2009 年）等。
評価の方法	末試験の点数と講義内で実施する小テストの点数との合計点で、評価をする。
学生へのメッセージ	教科書を必ず購入し、毎回の講義に持参すること。また、講義中の私語は、真剣に講義に臨む者を妨害する行為であるから、断固許さない。

科　目　名	民 事 の 裁 判	科目分類	専門・必修
		開講年次	3
英文表記	Law of Civil Procedure	開講期間	前期
ふりがな	かわぐち　まこと	単位数	4
担当者名	川　口　　誠		
授業の到達目標及びテーマ	民事訴訟の基本構造、骨格、システムの設計方針の理解 「民事紛争解決法の基礎的理解」		

【授業概要】民事訴訟法が全面改正され、続く関連諸制度の改正・整備により、この１０年で民事訴訟法関連分野は大きく姿を変えました。民事訴訟法は、私人の日常生活上の紛争を法的に解決する方式に関する一般法であり、民訴法学は、その訴訟を含むあらゆる民事紛争の解決方式および関連諸制度について、あるべき形態と理想の有機的構成を考察するものです。

実体法を中心に学んできた学生諸君にとって、手続法は異質であるためか、難解だと思われがちです。訴訟を１個のシステムととらえ、全体的視点から基本構造・理念をおさえ、これを基に細部を検討する方法で、より容易に理解できるはずです。この森全体の構造、骨格、システムの設計方針の理解を目指します。

授業計画

第１回　ガイダンス　民事紛争とその解決方法①	第 17 回　口頭弁論の準備・争点整理①
第２回　民事紛争とその解決方法②　ＡＤＲ	第 18 回　口頭弁論の準備・争点整理②
第３回　民事紛争とその解決方法③	第 19 回　口頭弁論と審理に関する諸原則
第４回　訴訟　　主体Ⅰ　当事者	第 20 回　証拠・証拠調べ　(1)種類等
第５回　　訴訟上の代理人	第 21 回　　(2)集中証拠調べ
第６回　主体Ⅱ　裁判所・管轄(1)	第 22 回　証拠の評価・証明責任
第７回　　裁判所・管轄(2)　　移送	第 23 回　訴訟の終了　(1)当事者の行為等
第８回　訴訟の開始と進行（1）訴え	第 24 回　　(2)終局判決による終了
第９回　　(2) 訴訟の客体　　訴訟物①	第 25 回　　(3)判決の効力　既判力など
第 10 回　　訴訟物②	第 26 回　複雑な訴訟形態(1)　複数請求訴訟①
第 11 回 訴訟の審理過程　裁判所と当事者の分担	第 27 回　　複数請求訴訟②
第 12 回 (1)裁判資料収集 当事者イニシアチブ①	第 28 回　　(2)　多数当事者訴訟①
第 13 回　　当事者イニシアチブ②	第 29 回　　多数当事者訴訟②
第 14 回　(2)審理進行　　裁判所イニシアチブ①	第 30 回　上訴・再審
第 15 回　　裁判所イニシアチブ②	第 31 回　少額訴訟等
第 16 回　中間試験	第 32 回　期末試験

テキスト	上原他著『民事訴訟法［第６版］』(有斐閣Ｓシリーズ、2009)。プリントも配布予定。
参考文献	講義で指摘する。
評価の方法	試験の結果に出席状況の評価を合わせて、総合評価。
学生へのメッセージ	テキストを何回か通読することを勧めます。

科　目　名	ホテルエアラインサービス論	科目分類	専門/選択
		開講年次	1
英文表記		開講期間	後期
ふりがな	むかいやち ひろのぶ	単位数	2
担当者名	向谷地　博信		
授業の到達目標及びテーマ	ホテル、エアラインの多様な現場部門の機能と職種、サービスを学び、そのスタッフに要求される資質を明らかにする。特にグランドスタッフ、フライトアテンダント、ホテルコンシェルジェの業務の役割と機能、サービスを学ぶ。また日本的おもてなしの国際的優位性を理解する。以って将来の進路選択の展望を拓く		

【授業概要】
サービス現場で活躍する専門家の講演により具体的な理解を促進しまたグループディスカッションにより考え表現する力を涵養する

授業計画
第１回　オリエンテーション
第２回　ホテルの宿泊部門とサービス
第３回　ホテルの料飲・宴会部門とサービス
第４回　ホテルの営業部門とサービス
第５回　ホテルコンシェルジェの実際（外部専門家講演）
第６回　グループディスカッション
第７回　エアラインのフライトアテンダントのサービス
第８回　グランドスタッフのサービス
第９回　トラベルエージェントのサービス
第 10 回　フライトアテンダントの実際（外部専門家講演）
第 11 回　グランドスタッフの実際（外部専門家講演）
第 12 回　グループディスカッション
第 13 回　海外のサービスの実例
第 14 回　日本的おもてなしの国際的優位性
第 15 回　まとめとキャリアデザイン
第 16 回　試験

テキスト	パワーポイントと資料
参考文献	授業の中で紹介
評価の方法	出席数、試験、受講姿勢の総合評価
学生へのメッセージ	サービスは日本人が世界に誇る資源です。ホテルとエアラインの最新の豊富な事例に基づきサービスを科学します

科　目　名	観光実務Ⅱ	科目分類	専門/選択
		開講年次	1
英文表記		開講期間	後期
ふりがな	むかいやち ひろのぶ	単位数	2
担当者名	向谷地　博信		
授業の到達目標及びテーマ	観光事業実務に役立つ知識につき理解を深め、学生の適性と関心に合致した将来の就職の展望を拓く		

【授業概要】
観光事業に関わる企業実務に有用な最新の知識を学ぶ。また演習により考え企画する力を涵養する

授業計画
第１回　オリエンテーション
第２回　観光に関連する資格と就職先案内―旅行業、宿泊業、運輸業、観光行政職
第３回　観光と社会の関わり―経済、環境、地域社会、情報
第４回　観光と交通
第５回　観光と地域活性化
第６回　観光の国際化
第７回　演習　ツアーを企画する
第８回　演習　ツアー企画　発表
第９回　演習　ツアーフォローアップ
第 10 回　観光と諸事業―コンベンション、カジノ、万博、オリンピック
第 11 回　観光デスティネーション論―欧米
第 12 回　観光デスティネーション論―アジア、環太平洋
第 13 回　観光デスティネーション論―中国
第 14 回　観光デスティネーション論―中東
第 15 回　まとめとキャリアデザイン
第 16 回　試験

テキスト	パワーポイントと資料
参考文献	授業の中で紹介
評価の方法	出席数、試験、受講姿勢の総合評価
学生へのメッセージ	観光は 21 世紀日本の成長産業です。最新の豊富な事例に基づき魅力的なツアー企画ができる力を養います。

科　目　名	観光法規	科目分類	専門/観光学科必修・法律学科選択
		開講年次	2
英文表記	Tourism Law	開講期間	後期
ふりがな	みちはた　ただよし	単位数	2
担当者名	道端　忠孝		
授業の到達目標及びテーマ	観光法令に基づくまちづくりのあり方の理解 テーマ：観光振興と観光法令の関係の明確化		

【授業概要】今、観光立国を実現するための観光立国推進基本法を基本法として種々の法令が定められています。そこで、本稿では、観光法令の体系や分類を明らかにし、観光振興と観光法令の関係を明確にしたうえで、観光事業法令（旅行業法、旅館業法、国際観光ホテル整備法など）や、観光開発法令（リゾート法など）のほか、景観法、文化財保護法、グリーンツーリズム法、エコツーリズム法、観光圏整備法などを取り上げ、観光法令に基づくまちづくりのあり方を明らかにしていきたい。

授業計画

第１回　ガイダンス；県内各地の観光まちづくりの現状などを紹介

第２回　観光、観光立国、観光立県、観光立町

第３回　観光と法律・行政

第４回　観光法の意義・体系

第５回　観光立国推進基本法と旧観光基本法

第６回　観光立国推進基本法の概要

第７回　観光事業法①旅行業法とその特例

第８回　観光事業法②旅館業法、国際観光ホテル整備法

第９回　リゾート法の概要

第 10 回　リゾート法の諸問題

第 11 回　景観法

第 12 回　文化財保護法と景観整備

第 13 回　グリーンツーリズム法

第 14 回　エコツーリズム法

第 15 回　観光圏整備法

第 16 回　試験

テキスト	開講時に指示する。
参考文献	開講時に指示する。
評価の方法	試験と出席状況等で評価(欠席回数 1/3 以上の者は受験資格なし)
学生へのメッセージ	毎日、新聞を読んで、地元や秋田の観光振興がどのように進められているか、スクラップブックを作ってみてください。

科　目　名	会社の法律	科目分類	専門/必修
		開講年次	3
英文表記	Company Law	開講期間	後期
ふりがな	みちはた　ただよし	単位数	4
担当者名	道端　忠孝		
授業の到達目標及びテーマ	会社、特に株式会社の基本構造を法的に理解すること テーマ:会社のメカニズムの基本を学ぶ		

【授業概要】会社法は、現在社会において大きな役割を果たしており、わが国には、世界有数の大会社も少なくありません。また、従来の有限会社も株式会社とみなされています。

そこで、株式会社を中心に、株式会社のメカニズムの基本を法的に学び、株式会社の基本構造を法的に明らかにしていきたいと考えています。

授業計画

第１回　ガイダンス、会社法の概要	第 17 回　株式会社の機関
第２回　企業法としての会社法	第 18 回　株主総会
第３回　会社の種類	第 19 回　取締役の義務・責任①
第４回　営利社団法人としての会社	第 20 回　取締役の義務・責任②
第５回　会社の能力	第 21 回　取締役会・代表取締役
第６回　会社の商号・使用人・事業譲渡	第 22 回　委員会設置会社
第７回　株式会社の特色	第 23 回　株式会社の監査
第８回　株式会社の設立	第 24 回　株式会社の計算
第９回　発起人・設立関与者の責任等	第 25 回　募集株式の発行
第 10 回　株式の意義・内容	第 26 回　新株予約権
第 11 回　株式の内容・種類・株券・株主名簿	第 27 回　社債
第 12 回　株式の譲渡とその制限	第 28 回　定款変更・解散・清算・継続
第 13 回　自己株式の取得	第 29 回　組織変更・組織再編①
第 14 回　株式の消却・分割・無償割当・併合・単元株	第 30 回　組織変更・組織再編②
第 15 回　株式の担保	第 31 回　持分会社（合名・合資・合同会社）
第 16 回　中間試験	第 32 回　期末試験

テキスト	丸山秀平『やさしい会社法(第 10 版)』法学書院
参考文献	西脇敏男『新・会社法講義－31 講－』八千代出版
評価の方法	試験と出席状況等で評価(欠席回数 1/3 以上の者は受験資格なし)
学生へのメッセージ	会社法の条文は民法典と同様、1000 か条もありますので、予習･復習をして、ノート整理をしてください。

科　目　名	観光人類学	科目分類	専門/選択
		開講年次	2
英文表記	Anthropology of Tourism	開講期間	後期
ふりがな	いのうえ　ひろし	単位数	2
担当者名	井上　寛		
授業の到達目標及びテーマ	人類がつくりあげた「文化」を観光の視点からみる力をつける		

【授業概要】

観光において「文化」は重要なテーマのひとつです。なぜなら、文化は人類がつくりあげたものですし、それを「みる」行為である「観光」も人類がつくりあげた「文化」です。この時間は、世界遺産や秋田の文化を「観光」の切り口からみる力をつけることを目標にします。

授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　観光と文化
第３回　観光のまなざし
第４回　ご当地「ゆるきゃら」と観光人類学
第５回　中国の観光を作り出すしかけ
第６回　ディズニーランドと巡礼
第７回　オーロラ・サンタクロース・サーミ人
第８回　観光商品と文化
第９回　情報資本主義と近代観光
第 10 回　バックパッカーツーリズムと消費文化
第 11 回　観光の現代史―マスツーリズム
第 12 回　観光と環境と世界遺産
第 13 回　ヘリテージツーリズムの光と影
第 14 回　観光からの排除された人たち
第 15 回　まとめ・復習
第 16 回　定期試験

テキスト	講義内で適宜資料を配布
参考文献	山下晋司著『観光文化学』新曜社　2007 年　（本体 2100 円）
評価の方法	定期試験と出席状況等により総合的に評価
学生へのメッセージ	難しそうに感じるテーマですが、世界遺産・テーマパーク・ご当地「ゆるきゃら」など、これらは「観光と文化」に関係するテーマです。楽しく学びましょう。

科　目　名	景観論入門	科目分類	専門/選択
		開講年次	2
英文表記	Introduction to Landscape theory	開講期間	後期
ふりがな	いのうえ　ひろし	単位数	2
担当者名	井上　寛		
授業の到達目標及びテーマ	観光の視点から「景観」を考える		

【授業概要】

観光において「景観」は重要なテーマのひとつです。観光客は、美しい景観に感動します。逆に、観光客を感動させるためにどのような景観を見せたらよいのかを考えましょう。世界中の「美しいまち」やアニメに描写される景観を講義内で紹介していきます。

授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　イメージと景観論
第３回　鞆の浦の景観①　ポニョの舞台になった理由
第４回　鞆の浦の景観②　景観訴訟を考える
第５回　失われた秋田の景観①　芭蕉の訪れた象潟
第６回　失われた秋田の景観②　マタギと熊
第７回　観光と日常の景観
第８回　蔵のまち喜多方と景観
第９回　テーマタウンと景観―タイムスリップしたまち
第 10 回　海外の景観①　アジアのまち
第 11 回　海外の景観②　ヨーロッパのまち
第 12 回　景観を「売る」観光
第 13 回　新旧の景観を対比しよう
第 14 回　アニメに描かれた郊外の景観
第 15 回　まとめ・復習
第 16 回　定期試験

テキスト	講義内で適宜資料を配布
参考文献	
評価の方法	定期試験と出席状況等により総合的に評価
学生へのメッセージ	実際に旅して、あるいはテレビや映画でみたお気に入りの景観や感動した景観はありますか？みなさんと景観について観光の切り口から考えていきたいと思います。

科　目　名	観光イベント論	科目分類	専門/選択
		開講年次	3
英文表記	Tourism event theory	開講期間	後期
ふりがな	いのうえ　ひろし	単位数	2
担当者名	井上　寛		
授業の到達目標及びテーマ	「観光イベント」はその地域の観光にどのような役割を果たしているか理解する。		

【授業概要】
観光行政をはじめ観光関連産業において「観光イベント」をどのように仕掛けるかによって、その地域の観光が成功するといっても過言ではありません。本講義では、観光イベントで成功した事例を学ぶとともに、実際に観光イベントに参加してもらい、肌で感じる体験をしてもらいます。

授業計画
第１回　ガイダンス
第２回　観光イベントとは
第３回　観光イベントの実践(1)　伝統芸能と文化
第４回　観光イベントの実践(2)　地吹雪ツアー
第５回　観光イベントの実践(3)　環境とエコミュージアム
第６回　観光イベントの実践(4)　美しい砂浜が美術館
第７回　地域の主体性を活かしたイベント
第８回　イベントによる人の集まるまちづくり
第９回　「食」と観光のイベント
第 10 回　温泉街活性化のイベント
第 11 回　観光ボランティアガイドの役割
第 12 回　観光イベントのバリアフリーを考えよう
第 13 回　観光イベントのフィールドワーク(1)
第 14 回　観光イベントのフィールドワーク(2)
第 15 回　まとめ・復習
第 16 回　定期試験

テキスト	講義内で適宜資料を配布
参考文献	長谷政弘編著『新しい観光振興』同文舘出版　2003 年　（本体 2300 円）
評価の方法	定期試験、レポート、出席状況等により総合的に評価
学生へのメッセージ	まずは自分の住んでいる地域の身近な観光イベントに参加し、観光客の立場から楽しんでみると同時に、問題点は何かを客観的な視点から考えてみましょう。